医療法人 ハートフル 広報誌
地域のみなさまと交流する健康かわら版
地域のために 地域とともに
[季刊誌] Vol.58
2017年1月16日発行

陽だまり通信

新年のご挨拶

日本人としての誇りを胸に

医療法人ハートフル
理事長
天野純子

新年のお慶び申し上げます。

昨年もいろいろな出来事がありました。何と言っても「カープの優勝」が嬉しかったですね！

他球団のファンの方々には申し訳ありませんが、私としては、昨年一番の、心に残った出来事でした。原爆投下後、打ちひしがれた広島の人々を元気にするために生まれてきた市民球団。

球団の運営危機には市民の協力で樽募金が集まり、ホームグランドとなるマツダスタジアムの建設の時も樽募金が集まりました。私の祖父も父もカープファンで、家庭でカープの話題が上らない日はありませんでした。

今までにも6回の優勝経験がありますが、今回の優勝には極めつけのドラマがありました。「黒田博樹」と「新井貴浩」です。黒田選手は２００８年に米大リーグに挑戦するためカープを去り、新井選手も自分の新天地を切り開くため阪神タイガースへ移籍しました。その二人が、２０１４年、そろって古巣、カープに戻ってきてくれました。このふたりが、今回の優勝に大きく貢献してくれたのではないかと思います。特に黒田選手は20億円というメジャーリーグのオファーを断り、「お金」ではなく、「心意気」で動く事ができる「日本人の素晴らしさ」を世界に示してくれました。

アマノリハビリテーション病院も、昨年、リハビリテーション施設の国際的評価機関「CARF International」の認定にチャレンジしました。「私達が提供しているリハビリテーションは、世界の視点からみて、どのようなものなのか。」そういった思いがあり、アメリカで交流させて頂いているリハビリテーション病院の先生方の勧めもあり、チャレンジしてみました。2年をかけて準備を進め、昨年11月に認定審査を受け、晴れて認定していただきました。認定審査は厳しく、要求されている事項も大変多かったです。組織として健全か、患者さん主体のリハビリテーションとなっているか、患者さんやスタッフの安全性は確保されているか。なるほど、自分達には出来ていない、と思う事項もありました。しかし日本人の道徳観を持ってしたら問題にならない事項を明示せよと言われる事もありました。今後、何回か認定審査を受けていくつもりです。黒田選手のように、「日本人の素晴らしさ」を世界のリハビリテーションの現場に示していきたいと思います。

実際に、日本は世界に先駆けて超高齢化社会を迎えています。介護保険は、世界に誇れる優れた制度です。これから構築していく「地域包括ケアシステム」も、地域のニーズに合わせて、包括的かつ効率的な素晴らしいケアシステムとなるはずです。今後、世界が日本に注目してくるはずです。

私達も「日本人としての誇り」を胸に、今年も頑張っていきたいと思います。

新年のご挨拶

アマノリハビリテーション病院
院長
川上 恭司

明けましておめでとうございます。昨年も、私達のハートフルはいい事ばかりでした。5月には、三階西病棟を回復期ⅡからⅠに昇格、7月からは三階東病棟のうち20床を地域包括ケア病床に、12月には世界標準であるＣＡＲＦの認定が得られる事も決まりました。地域の方々からも、「リハビリならアマノじゃね」「家へ帰る前に、とにかく一度アマノでリハビリしたい」と言う声をたくさんお聞きします。職員一人一人の愛情あふれる技術力のおかげと思っています。ありがとうございます。

実は、人間も組織も、こういう状態が一番危険なのです。順調にいって当たり前、アマノのリハビリが一番は当たり前という気持ちと態度が、傲慢をうみます。私達にはまだまだ成すべき事がたくさんあります。くれぐれも、謙虚に、兜の緒をしっかり締めて、世界のリハビリテーション病院の手本になるように、今年もよろしくお願い致します。

あまのクリニック
院長
福田 裕恭

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

あまのクリニックでは、みなさんが住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、昨年、〃在宅医療支援室〃を立ち上げました。この支援室は、患者さんとご家族のみならず、他の医療機関や、地域の支援機関との連携を深め、医療・在宅ケアの総合窓口として、その役割を果たしていきたいと考えております。

そしてこの度、医師、訪問診療部門、訪問看護ステーション、ケアマネージャー、その他の職種がチームとなり、〃緩和ケアチーム〃〃小児科チーム〃〃心療科チーム〃を編成し、それぞれの専門性を持つチームが、みなさんの医療、在宅でのケアを支援してまいります。

本年も、在宅でのサポートを充実させていくために、あまのクリニックの持っている機能を最大限に生かし、さらなる連携強化を目指してまいります。

在宅療養支援診療所
開設準備室　室長
狭田 純

明けましておめでとうございます。

一昨年九月から在宅療養支援診療所開設準備室を設けて頂き、勤務しています。実際は、アマノリハビリテーション病院で外来や病棟の患者さんの診療を手伝ったり、あまのクリニックで外来や訪問診療を手伝っています。

ただ、今後は主として、あまのクリニックやあいプラザにある在宅療養の諸事業所や老人ホーム望海の里やカーサミーアなどの連携を強化して、診療部門を含めた在宅総合ケアセンターの設立を模索することを考えています。

今行政は、二〇二五年問題（団塊の世代が後期高齢者となる）として三十分圏内を二区画とした地域包括ケアシステムの構築を地域に応じて整備するようにと動いています。しかし、あと五年もすると後期高齢者の絶対数はそれ程増えなくなります。従って十年では無くあと五年以内に必要な医療介護資源を地域で揃える必要があります。

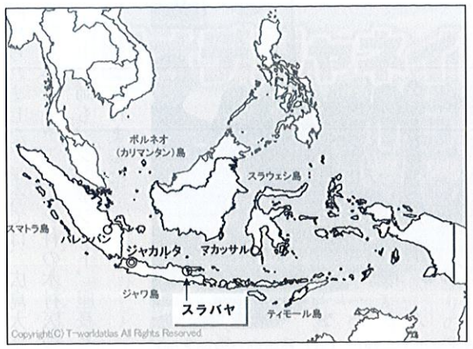
医療法人ハートフルにはそれを担う部門や事業所が揃っています。しかし、情報共有のシステムや運営方法の確立がまだ発展途上にあると思います。折角ここまで発展してきた法人を是非職員の皆さんと一緒に更に発展させて地域のモデル組織となり、個人的にも地域とともに地域のために尽くしたいと思っています。法人内外の皆様、宜しくお願い致します。

特集

『国境を越えた笑顔に出会って』

～インドネシア訪問～

アマノリハビリテーション病院 リハビリテーション部 副部長　川村 美紀子



この度、２０１６年10月24日～28日に、インドネシアを訪問する機会がありました。今回の訪問目的は２つあり、第１の目的は、インドネシア第２の都市スラバヤにある国立アイルランガ大学医学部リハビリテーション科・Dr. Soetomo 病院（アイルランガ大学の教育機関病院）の医師・理学療法士及び理学療法学科の学生に、本邦および当院での小児リハビリテーションについて講演することでした。内容は、日本における小児リハビリの歴史や現状、福祉機器の紹介、当院の症例を通した実際のリハビリ場面を紹介しました。また、Dr. Soetomo 病院の小児リハを見学する機会もあり、短時間でしたが、Dr. Soetomo 病院理学療法士の方と一緒に症例について検討し、お母さんへ実技指導することもできました。病院に通院している子ども達は、脳性麻痺が多く、インドネシアではリハビリを受けられる病院や車椅子、バギーも不足しているため、家族が子どもを抱きかかえて、遠い島から通院している親子もたくさんいました。そのような状況の中でも、病院で出会った子ども達、お母さん達の笑顔は輝いており、今でも私の脳裏に焼きついています。この時の国境を越えた笑顔は、私にとって一生忘れられないものとなり、これからの理学療法士としての過程で大きな宝物となりました。

インドネシアの理学療法士及び医師と症例検討の様子

訪問目的の第２は、インドネシア第１の都市であるジャカルタで開催された「インドネシアリハビリテーション医学学術集会」に参加し、「自閉症スペクトラム児の乳幼児期における運動発達の特徴」について口演発表でした。この学会には、インドネシア、バングラデシュ、インドなどアジア各国の医師や療法士が参加し、リハビリテーションについて様々な演題発表やシンポジウムが行われました。ここで行われる発表は、日本の発表と大きな違いがあり、座長以外に審査委員が同席し、その場で発表の問題点や今後の課題等について審査されます。私の発表は、時間ギリギリでしたが、今後もこの内容に関しての調査を継続するようにと

遠い島から通院している親子と一緒に

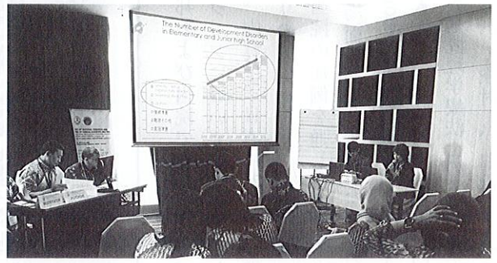
勧められました。学会では、広島大学病院リハビリテーション科の木村医師と三上医師も、シンポジスト、座長として活躍されました。

インドネシアの理学療法学生と一緒に（みんな素敵な笑顔です）

国立アイルランガ大学医学部 Hening 教授（左）

インドネシアのリハビリテーションは、日本と比べ、機器の不十分さや、療法士養成機関の不足等がありますが、インドネシアのリハビリテーション医師や理学療法士の方々の熱心な取り組みと知識の高さに感銘を受けました。

今回のこのような貴重な機会を与えて下さった木村医師と三上医師に感謝し、これからもハートフルの理学療法士として、頑張っていきたいと思います。



インドネシアリハビリテーション医学学術集会での口演発表の様子

ホームページが見やすくなりました

アマノリハビリテーション病院 放射線課
医療法人ハートフル 広報委員会 委員長
外川雅士

当法人は、昨年ホームページをリニューアルしました。

変更点ですが、まず従来のホームページは施設別にページが分かれていましたが、目的別にページを分けました。例えば「外来受診の方」「入院・面会を希望される方」「通所・訪問サービス利用をご希望の方」のように表示し、閲覧される方が目的に沿って探せるようにしました。

次に、ホームページがスマートフォン対応になりました。総務省の「平成26年通信利用動向調査」によるとスマートフォン普及率は平成26年で64.2%（平成22年は9.7%）と急速に普及が進んでいます。今後はスマートフォンからの閲覧が増加すると考え、今回のスマートフォン対応に踏み切りました。そのスマートフォンで従来のホームページを閲覧すると全体的に小さく表示されました。さらにそれに伴い文字情報はより小さく表示され、文章を詳しく見たいときはその度に大きく表示させる必要がありました。リニューアル後はホームページ全体がスマートフォンで閲覧しやすい大きさに表示され、文字も小さくならず、より手軽にホームページをご利用していただけるようになりました。

さらに、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）のフェイスブックを導入し、より細かな情報も発信できるようになりました。

その他に、職場を紹介する動画の追加やリニューアルされたところは多々ありますが、より多くの皆様にご利用していただけるよう日々更新をしていきたいと思います。

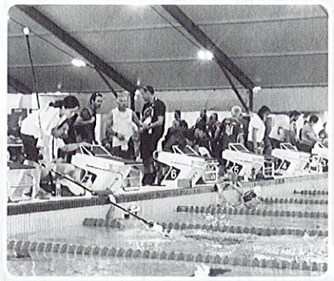
リオデジャネイロ・パラリンピック2016に参加して

アマノリハビリテーション病院 リハビリテーション部 吉岡政子

この度、ブラジルで開催されたリオデジャネイロ・パラリンピック2016に日本代表競泳チームのスタッフとして参加してまいりました。176カ国、4350人の選手が参加した今大会は、2つの新競技が加わり、22競技528種目で日々白熱した戦いが繰り広げられました。

4年に1度のパラリンピックは、障がい者スポーツ最高峰の大会であり、これまでに参加した国際大会とは比べ物にならないほどの熱気を帯びていました。また、選手の気迫は鬼気迫るものがあり、会場内には割れんばかりの歓声が響き渡っていました。

チーム内における今回の私の役割は、クラス分けでのトラブル発生時の対応、選手の競技・生活サポート、日々の健康管理でした。レース本番での、車椅子選手の入退水介助や、視覚障がい選手のタッピング等は、予選や決勝に臨む選手の緊張感がひしひしと伝わってきて、一緒にスタート台に立つような気持ちにもなりました。（タッピングとは、視覚障がいの選手が泳いでいる時に、壁が近付いてきたことをタップして知らせる行為の事をいいます。写真参照。）



今回、競泳チームは選手19名を派遣し、銀メダル2個、銅メダル5個の成績を収めることができました。リオデジャネイロでの開催に先立ち、色々と心配なニュースも多く、不安の声も聞かれましたが、実際にはトラブルもなく、自国のみならず他国の選手を心から応援する現地の方々のホスピタリティーに触れることができました。また、選手村内では、他国や他競技の方々と接する機会もあり、多くの刺激を受けました。そして、スポーツの意義や可能性を改めて感じることができました。これは、可能性の極限を追求する競技スポーツのみならず、それぞれの年齢や体力、運動機能、目的に応じて、主体的に親しむスポーツも同様であり、いきいきとした生活を送る上で、極めて大きな意義を持つのではないでしょうか。

4年後には、いよいよ東京で開催されます。多くの人々の刺激となり、社会にも大きな影響を与えることになるのではないかと今から楽しみです。これを機に、スポーツをすること、スポーツをする人を支える事に興味を持っていただけたらと思います。私も、今回の経験を、日々の業務、そして地域の中で少しでも活かせるよう努めてまいります。

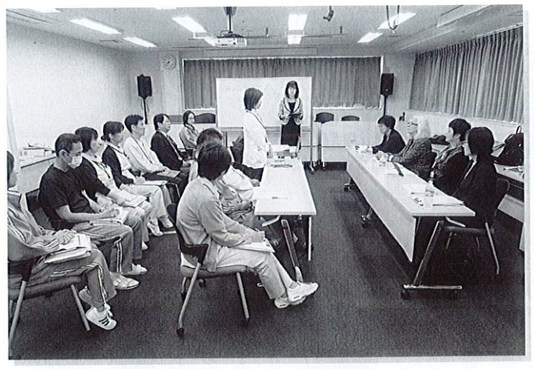
CARFの認定を受けました

～より質の高いリハビリテーションをめざして～

アマノリハビリテーション病院　事務部長　宮本　一男

当院では、専門的に行っているリハビリテーションの質をさらに高めるため、今年度の病院目標の一つに、「リハビリテーションの中身を世界的レベルに引き上げる」ことを掲げ、鋭意努力しているところです。

そのような中、取り組みの一環として、昨年11月にCARFの認定審査を受け、無事認定を受けることが出来ました。



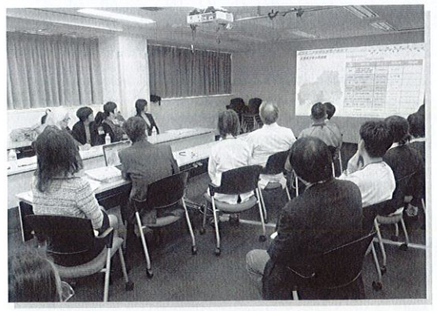
CARFとは、リハビリテーションを専門的に行っている病院や施設が国際的な品質基準を満たしているかどうかを審査、認定をする国際的な認定機関（本部はアメリカ）で、当院では約2年をかけて準備を進めてきました。

まず、院内にプロジェクトチームを立ち上げ、「患者中心の医療の提供」、「効果的なリハビリテーションプログラム」、「医療安全の徹底」、「社会情勢にマッチした経営戦略プランの策定」など、CARFから求められた多岐にわたるテーマについて、当病院ではどうあるべきかを検討し、試行錯誤を繰り返しました。

このことにより、これまで不十分だった点や、改善すべき点などが明確となり、病院の多職種によるチーム連携がよりスムーズに、また患者さんの病状や心に寄り添ったリハビリテーションを提供できる仕組みが構築できてきたと思います。

CARFの審査は昨年11月14日～16日の3日間にわたって、アメリカ人と中国人2人のサーベイヤー（調査官）が当病院を訪問され、実際に病棟を歩かれたり、患者さんや病院の職員に直接質問をされたりという形で行われました。病棟には何回も足を運ばれ、夜勤帯の状況についても熱心に見ておられました。

鋭い質問が続き、職員は緊張しつつも、現状の説明やそれに対する取り組みの内容などについて、熱意と自信をもって回答をすることができたと思います。



調査最終日の講評でも、「リハビリテーション以外の時や場でも患者さんを大切にしている」、「しっかりと医療安全に取り組み、信頼がおける」といった評価をいただきました。

今回のCARF認定を機に、更に質の高い効果的なリハビリテーションを提供し、これまで以上に地域に貢献できる病院をめざしたいという気持ちを新たにしました。

リハビリテーション資源マップ

地域リハビリテーション広域支援センター　センター長
寺田千秀

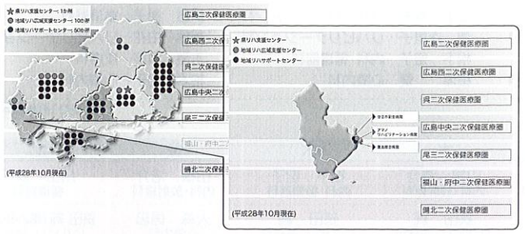
皆さん、日々の生活の中で、病気や怪我をしてリハビリを受けたいとき、「どこの病院・クリニックに行けばよいのだろうか」と迷われることが多いのではないでしょうか？ 道先案内人のような資料があれば便利だなと思われたとき、役立つのがリハビリテーション資源マップ（以下リハ資源マップ）です。

廿日市市でも、医療・介護・福祉に関する資源マップの作成を検討されています。しかし、日々刻々とサービスが増えていく中、更新が追いつきません。配布資料の再作成・再配付、あるいはインターネットの場合は更新作業が大変です。すぐに更新されたとしても、カタログショッピングのように選択はできないでしょう。そこで、困ったときの相談先の（A4の両面内で収まるもの）ファイル作成を検討しています。相談に乗ってくれる所が分かれば、一歩先に進めます。

そのファイルを電話口に張り出しておけば、悩む時間が少なく対処できるでしょう。今年度中に配付される見込みです。

皆さんが使いやすいリハ資源マップの完成までには時間を要します。お悩みの際は、当法人の地域リハビリテーション広域支援センター（県から指定）が、ご相談をお受けし、必要な部署・施設におつなぎします。

地域リハビリテーション広域支援センター　寺田（てらだ）
電話番号　0829-137-0800（代表）まで、お電話下さい。



＊「広島県地域包括ケア推進センター」ホームページにて検索可能です。
http://chiikihoukatsucare.net/shigenmap/index.html#map

あまの保育園「あまのっ子」のコーナー

～小さいながらもガンバリマン～

運動会

１年を通してあまの保育園では様々な行事を行っています。その中でも一番大きな行事は、なんといっても運動会です。お友だちと一緒に行う楽しさや、体を思いっきり動かす気持ちよさがあります。小さいながらも頑張る姿に、たくさんの拍手をいただき、子どもたちの表情がとても誇らしく、輝いていました。

お散歩

お散歩は、一日の中でも子どもたちの大好きな活動の一つです。お友だちの手を握り、顔を見合わせて微笑み合いながら、一緒に歩き始めます。繋がれた手と手のあいだには、温もりと喜びがあります。乳児期から集団の中で人と関わる経験を通して、お互いの「気持ち」に触れることで、少しずつ心が豊かに育っていきます。言葉をかわさなくても伝わる「あたたかな温もり」、それを感じ合う心こそが、今の時代には大切で必要なことかもしれませんね。様々な行動を経験していくにつれ、子どもたちが自ら伸びていく力の素晴らしさには、いつも感動します。

新しい年も子どもたちの健やかな成長を願い、ハートフル職員の皆様が安心してお子様を預け、働くことができるよう、心をこめて保育して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

園長　本田　徳子

在宅医療支援室を開設！

あまのクリニックでは、この度、在宅医療の支援を強化するため、「在宅医療支援室」を立ち上げました。この支援室では、患者さんとご家族が、その人の生活の場で「その人らしく、納得・安心・満足」のいく、療養生活を送れるように、医療法人ハートフルの各事業所と連携を図りながら、ご支援をしてまいります。

医療の相談となるとなかなか難しいところもあろうかと思います。そういった場合に、在宅支援(在宅療養支援)・訪問看護・療養支援(在宅医療指導、在宅医療、在宅療養に関する相談支援)等のサポートを行っていく部門です。

在宅での療養に関してご相談がございましたら、ご本人様、事業者さま関わらず、在宅医療支援室にご連絡下さい。

あまのクリニック在宅医療支援室　0829-31-5122(直通)　担当:小野(看護師)

天野　純子…内科・リハビリテーション科
川上　恭司…循環器科
福田　裕恭…内科・心療内科
福田　純男…小児科
狭田　純…リハビリテーション科・神経科
中島　康…内科・循環器科
山根　浩介…内科・放射線科
小浦　義彦…リハビリテーション科
大森　信忠…心療内科
木村　浩彰…リハビリテーション科
西山奈緒子…内科・リハビリテーション科
三上　幸夫…リハビリテーション科
澤　衣里子…リハビリテーション科
松下　宏子…内科・循環器科
榎津　優…心療内科
河村理英子…小児科
伊藤　泰子…循環器科
菊地　由花…リハビリテーション科
吉屋　直美…皮膚科
柏木紀代子…心療内科

2016年9月以降

アマノリハビリテーション病院

診療		月	火	水	木	金	土
午前9時～12時	1診	中島　康 内科・循環器科	菊地　由花 リハビリテーション科	山根　浩介 内科・放射線科	松下　宏子 内科・循環器科	山根　浩介 内科・放射線科	川上　恭司 循環器科
	2診	狭田　純 リハビリ・神経科	—	狭田　純 リハビリ・神経科	狭田　純 リハビリ・神経科	大森　信忠 心療内科	狭田 純(第2.4のみ) リハビリ・神経科
		—	—	—	—	—	福田 純男(第1.3のみ) 小児科
午後		休診					

あまのクリニック

診療		月	火	水	木	金	土
午前9時～13時	1診	—	山根　浩介 内科・放射線科	—	—	狭田　純 リハビリ・神経科	—
	2診	榎津　優 心療内科	福田　裕恭 内科・心療内科	柏木紀代子 心療内科	福田　裕恭 内科・心療内科	福田　裕恭 内科・心療内科	福田　裕恭 内科・心療内科
午後2時～5時	1診	—	中島　康 内科・循環器科	—	—	—	—
	2診	福田　裕恭 内科・心療内科	—		福田　裕恭 内科・心療内科		福田　裕恭 内科・心療内科

※急患はこの限りではありません。お気軽にお問い合わせのうえ、受診してください。　※都合により、外来担当医が変更になる場合もございます。ご了承ください。

医療法人 ハートフル　http://www.amano-reha.com

アマノリハビリテーション病院

廿日市市陽光台5-9　TEL.0829-37-0800
診療科目　内科・リハビリテーション科・神経科・心療内科・循環器科・皮膚科
診療時間　午前9時～12時
休診日　日曜・祝日

あまのクリニック

廿日市市串戸5-1-37　TEL.0829-31-5151
診療科目　心療内科・内科・循環器科・リハビリテーション科
診療時間　午前9時～13時(受付は12時まで) 午後2時～5時
休診日　水曜・金曜(午後)・日曜・祝日

■通所リハビリテーション
■重度認知症患者デイケア

■高齢者デイサービスセンター ゆうゆうあまの

廿日市市新宮1丁目13-1
廿日市市総合健康福祉センター あいプラザ内3F
TEL.0829-20-1620
電話対応可能時間　月曜～土曜可能
午前8時30分～午後5時30分

■広島西障がい者就業・生活支援センター もみじ

廿日市市串戸5-1-37 あまのクリニック内5F
TEL.0829-34-4717　FAX.0829-34-4718
電話対応可能時間　月曜～金曜
午前8時30分～午後5時30分

■相談支援事業所 あおぞら

廿日市市串戸5-1-37 あまのクリニック内5F
TEL.0829-34-4710
電話対応可能時間　月曜～金曜
午前8時30分～午後5時30分

■地域活動支援センター ハートフルあまの

廿日市市新宮1丁目13-1
廿日市市総合健康福祉センター あいプラザ内3F
TEL.0829-20-1624
電話対応可能時間　月曜～金曜
午前8時30分～午後5時30分

■あまの訪問看護ステーション

岩国市牛野谷町3-49-53
TEL.0827-32-6265
電話対応可能時間　月曜日～土曜日、祝日
午前9時～午後6時 ※緊急時は24時間対応

■訪問看護ステーション ハートフルステーション あまの

廿日市市串戸5-1-37　TEL.0829-31-5212
電話対応可能時間　月曜～土曜　午前8時30分～午後5時30分

■介護付有料老人ホーム 望海の里

廿日市市宮島口東2-13-15　TEL.0829-56-4580

■介護付有料老人ホーム カーサ ミーア

廿日市市陽光台3-1-3　TEL.0829-37-1133

■発達支援教室おひさま

廿日市市陽光台3-1-3　TEL.0829-37-1166
電話対応可能時間　日・祝日・水曜日除く　午前8時30分～午後6時

■アマノ居宅介護支援事業所

廿日市市串戸5-1-37　TEL.0829-31-5213
電話対応可能時間　月曜～土曜　午前8時30分～午後5時30分

発行:医療法人 ハートフル　企画・編集:広報委員会　発行日:2017年1月16日　季刊誌